

豪雨対策 必要な知識を

弘前市マイスター
連絡会が研修会 気象変動現状学ぶ

弘前市防災マイスター連絡会は16日、同市宮園2丁目の市社会福祉協議会で、3年ぶりに防災研修会を開いた。参加者約40人が、気象学を専門とする弘前大学大学院理工学研究科の石田祐宣准教授から、8月上旬に津軽地方で起きた記録的な大雨の発生原因など気象変動の現状を学んだ。

市防災マイスター認定者からなる同会は、地域の自主防災活動に役立てようと

年2回研修会を開いている(2020、21年は新型コロナウイルス禍で中止)。8月の大雨では岩木川沿いを中心に避難指示が出され、避難所に身を寄せた住民もいた。このことから必要な知識を習得し、災害に備えてもらおうと、石田准教授に講師を依頼した。

会員らは温室効果ガス増加の仕組みのほか、県内で変化する気象状況、温暖化で白神山地のブナ林の二酸



化炭素吸収量が減少する可能性があることを学んだ。

相馬勝会長は「研修会で得た情報を自主防災会に生かし、地域の避難所を再確認してほしい」と話した。

会員の白銀鉄子さん(81)は「豪雨などの極端な現象が増えることが予想されると知った。地域防災を見直すとともに、自主防災会に役立てていきたい」と気持ちを新たに話した。(稲葉智絵)

石田准教授(右端)から気象変動による影響などを学ぶ会員たち

※この画像は当該ページに限って

陸奥新報社が利用を許諾したものです。

[問合せ先]弘前大学理工学研究科

E-mail:r_koho@hirosaki-u.ac.jp